

75 英国医史、中世の例

栗 本 宗 治

大阪医科大学

アポロの子アスケレピウスの跡はブリテン島北部カーボウ西部ブレコンなどにのこる。

キリスト教者による伝道医療はイングリランドとスコットランドの境界域において、St. Columba (五二一—五九七)、St. Cuthbert (六三三—六八七) らによって早く行われ、とくに後者の例は Bede (六七三—七三三) が記す。

モンベリエは十二世紀創立とされる。John of Gaddesden (Gatesden, Gadesdene, Gaddisdyn etc. 一二八〇—一三四九) はその地に学び、マートンコレジオクスフォードに教えた。代表著書に *Rosa Anglica Medicinae* 一三二—四著述がある。英人初の医印刷本一

四九二とされる。同時代チョーサーはカンタベリー物語に云う、「一同の中に一人医学博士あり…古えのヒボクラテス、アヴィセンナ、ベルナルド、ガーデスデン、ギルベルティンなどについてよく知れり…」。シテイのセント ポール寺院僧、エドワード二世侍医でもあった。

この書は現在、*Rosa Anglica, ed W Wulff, M.A. Irish Texts Society, London 一九二九* 訳注解説によって大意をみる事ができる。内容は次のようである。Tertian Fever Sanguine Fever Ephemera Hectica Cardiaca Apostema Lethargo Hernia Paralysis Dropsy Smallpox Arthritis. 長年の蓄積が記された。奇妙な病い、処置が目につくが有用なものもあった。教育、治療応用、東洋医療、イギリス医療、そして祈りが述べられた。今時に説明理解できないと排するは当たらない。モダンと云うは時代・地域のなから生れてきた。

Rosa Anglica 印刷本 (一四九二) 一世紀後 ハーヴ

エイ(一五七八—一六五七)の時代となる。トマス・ウィリス(一六二一—一六七五)、オクスフォード、ロンドン)、トマス・シテナム(一六二四—一六八九、オクスフォード、モンペリエ、ロンドン)の臨床書をガデスデンとあわせて読む。そのころの Nicholas Culpeper (一六一六—一六五四、ロンドン) 著書 *The Complete Herbal. The English Physician. Astrological Judgement of Diseases.* など後世まで重宝された。二十世紀二人の合衆国における講演、Clifford Allbutt 一九〇四は Gaddesden, Gilbertus, Gordon 以下 William Osler 一九一三は Culpeper に言及した。

十三世紀ガデスデンのころ、ジョン王大憲章マグナカルター一二五二の文言には今現行法のものがある。Henry de Bracton は *De Legibus Angliae* 一二五六に法を説いた(法の支配)。十四世紀コモンロー医事法例には今も生きるものがある。十六世紀協会改革は法職医職の改革をよんだ。ハーヴェイの交友患者には有能の人がいた。John Donne (一五七二—一六三二、セン

トポール寺院僧長)は解剖講義に参列、受診した。その説教は、詩とともに今も生きる「No man is an island...」、医への言及が少くない「老者は若者よりすばらしい...」。

二十世紀ヘルスサービス一九四六(医療費の支払能力は問わない)に中世ガデスデンの祈り、近世初頭セントポール寺院の祈りが法制化をみた。ハーヴェイは Sir Edward Coke コモンロー権利請願一六二八の社会に生きた。今ヘルスサービス半世紀、患者権利憲章(一九九〇年代)はその具現をめざす。